

Q. うまく織れない。

A. 4 ページの「織り方の基本」をよく読んでください。

Q. タテ糸の長さはどうやって決めるのですか？

A. タテ糸の長さは織りたいものの出来上がり寸法で決めてください。短いものを織るときは、4 ページの「3. タテ糸をセットしよう」を、長いものを織るときは、15 ページの「4. タテ糸のとおりつけ」を参照してください。

Q. 用意したタテ糸 18 本とそうこうとの本数が合いません。

A. 両端のそうこうは、ガイドピンです。タテ糸を通さないでください。

Q. そうこうが下がらず、撻道が狭くなってシャトルが通しづらくなってしまった。

A. そうこうがパンチカードの穴にしっかり入っていないため下がりにくくなる場合があります。そうこう部分を上から軽くたたか、送りツマミを少し前後に動かしてください。

A. 織り目が増えてくると撻道が狭くなります。17 ページの「5. 布地のまき取り」を参照してください。

Q. そうこうがうまく戻らない。

A. タテ糸をきつく張りすぎると、送りレバーを下まで押せなかったり、そうこうがうまく戻らない場合があります。7 ページの「ポイント」を参照してください。

Q. 端の折り返し部分で、ヨコ糸が端のタテ糸から抜けてしまった。

A. 11 ページの「通し方」を参照してください。

Q. パンチカードがうまく入らない。

A. パンチカードはやわらかいので、曲がらないように手で持ち、入れるようにしてください。(9 ページ) それでも入らないときは、本体を横にしてパンチカードを入れるようにしてください。(10 ページ)

Q. パンチカードが進まない。

A. パンチカードは赤い線を見ながら必ず平行に入れてください。

Q. 文字が逆になってしまいました。

A. 「8. パンチカードで文字を織る」の中の 9 ページを参照してください。

Q. 織っているうちに横の幅が狭くなってしまった。

A. ヨコ糸を強く引きすぎると織り幅が狭くなります。引きすぎないようにしてください。

Q. 出来上がりの長さが短くなってしまった。

A. ヨコ糸をクシで手前に引き寄せすぎると目がつまり出来上がりの寸法が短くなります。詰めすぎないように注意してください。

Q. 糸まきバーと布まきバーが回らない。

A. 糸まきバーをゆるめるとき、布まきバーを巻き取るときは、両手でハンドルを引っ張りながら両方のハンドルを同時に回してください。

Q. 取り扱い説明書の作例以外のものは作れますか？

A. できます。いろいろアレンジしてください。

Q. 織った文字が読みにくい。

A. 地色と文字色の毛糸の色に差を出すと模様ははっきりします。

Q. 付属の毛糸以外でも織れますか？

A. 市販の毛糸で織れますが、太さは付属の毛糸に近いものを使用してください。

タカラトミーでは、「子どもたちに安全で楽しいおもちゃと夢を」を第一に考えております。そのため、常に製品に対し研究、改良を行っており、お買い上げ時期によって同一製品の中にも多少異なるものや、パッケージの写真やイラストなどと異なる場合がございますがご了承ください。製品につきましては、万全の注意を払って製造に当たっておりますが、万一お気付きの点がございましたら下記までご連絡ください。

タカラトミー お客様相談室 おかけ間違いのないようご注意ください

〒124-8511 東京都葛飾区立石 7-9-10

製品や修理については下記お客様相談室までお問合せください

電話受付時間 月曜日～金曜日(祝日・祭日を除く) 10～17 時

PHS、IP電話等からのお問合せは 03-5650-1031

0570-041031 タカラトミーサポート 検索

<http://www.takaratomy.co.jp/support/index.html>

株式会社 タカラトミー

©TOMY

●たのしいタカラトミーの情報はインターネットで <http://www.takaratomy.co.jp>

家庭用品品質表示法に基づく表示

毛糸(タテ糸): アクリル 100% 表示者: 株式会社タカラトミー

毛糸(ヨコ糸): ポリエステル 100% 0570-041031

毛糸の長さを測るときに便利な目盛りだよ。



Mocomoji Orina

モコモジョリーナ

対象年齢 6才以上

保護者の方とお読みください

乾電池は使用しません。
NO BATTERIES REQUIRED.

取り扱い説明書



取り扱い説明書 & おみぐるみなどのつくり方

この度は、タカラトミー「モコモジョリーナ」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。ご使用前に、この取り扱い説明書(本書)をよくお読みください。また、読み終わった後は必ず保管しておいてください。

※イラストと写真は実際の商品と多少異なる場合があります。写真にありませんマフラー以外の毛糸はセット内容に含まれておりませんのでご了承ください。

警告(けいこく)

保護者の方へ 必ずお読みください。

- 小部品があります。誤飲・窒息の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。
- ぬい針は、鋭利な先端を持っていますので危険です。
- 毛糸は火に近づけないでください。

注意(ちゅうい)

- 作ったマフラーや小物を首にきつく巻いたり、みざれたり、乱暴に扱わないでください。窒息などの危険があります。●毛糸を首にかけてみざれたり、乱暴に扱わないでください。窒息などの危険があります。●毛糸による事故の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。●毛糸は、指などにまきつけないでください。血がかわなくなり危険です。●可動部の隙間には指などを入れないでください。はさまれてケガをする恐れがあります。●思わぬ事故の恐れがありますので、ご使用後は3才未満のお子様の手が届かないところに保管してください。●プラスチック袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。●ハサミを使用する際には、お取り扱いにご注意ください。

＜使用上のお願ひ＞

- ご使用前に、取り扱い説明書(本書)をよくお読みください。また読み終わった後は必ず保管しておいてください。○性質上、毛が抜けやすいので誤って飲み込まないよう注意してください。○ハサミを使うときは十分注意してください。○火のそばに近づけないようにしてください。○プラスチック袋は梱包材ですので開封後はすぐに捨ててください。

♡ おうちの方へ ♡

モコモジオーナは、パンチカードでいろいろな文字やマークが楽しく織れる手織り機です。手織りは、はじめの段取りが大切です。この説明書をよく読んで正しい使い方を覚えてください。最初はおうちの方と一緒に読みながら、付属の糸で練習してください。

モコモジオーナは、簡単な平織りから、文字やマークなどを織ることができ、それを縫い合わせることで、いろいろなものが作れます。

お子様の創作意欲を伸ばしながら実用的で身近な作品ができますので、やればやるほど楽しい手芸です。用途やデザインをお子様と一緒に考えながら、すてきな作品をどんどん作ってください。

♡ もくじ ♡

<モコモジオーナの部品の名前と説明>

- ・ セット内容 2 ページ
- ・ 本体の部品の説明 3 ページ

<織り方の基本>

1. タテ糸のとりつけ 4 ページ
2. ヨコ糸の準備 4 ページ
3. タテ糸をセットしよう (短いものを織るとき) 4 ページ
4. 送りレバーの操作 5 ページ
5. 平織りプレートの入れ方 6 ページ
6. 織り出し棒のセット 6 ページ
7. 平織りを織る 7 ページ
8. パンチカードで文字やマークを織る 8 ページ
9. 織り終わったら 12 ページ
10. ヨコ糸のつなぎ方、ヨコ糸の色の替え方 12 ページ
10. 房を作る 13 ページ

<マフラーを織ってみよう>

1. パンチカードを組み合わせよう 14 ページ
2. 糸の準備 14 ページ
3. パンチカードの見方 14 ページ
4. タテ糸のとりつけ (長いものを織るとき) 15 ページ
5. 布地のまき取り 17 ページ
- ・ かな→ローマ字一覧表 18 ページ

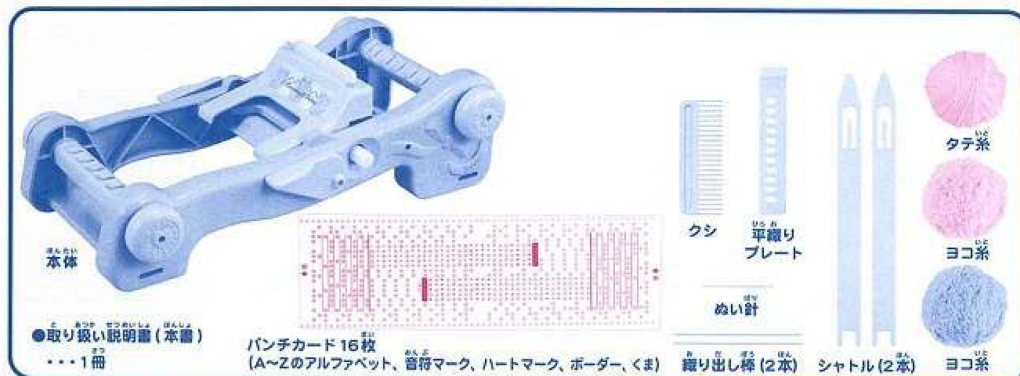
<いろいろな作品の作り方>

- ・ ふわふわ毛糸のポーチの作り方 19 ページ
- ・ ふわふわ毛糸のバッグの作り方 20 ページ
- ・ ふわふわ毛糸のくまの作り方 21 ページ

♡ モコモジオーナの部品の名前と説明 ♡

セット内容

モコモジオーナには、次のものが入っています。使う前に不足しているものがないか、よく確かめてください。



● 取り扱い説明書 (本書)
・・・1冊

パンチカード 16枚
(A～Zのアルファベット、音符マーク、ハートマーク、ボーダー、くま)

クシ

平織りプレート

ぬい針

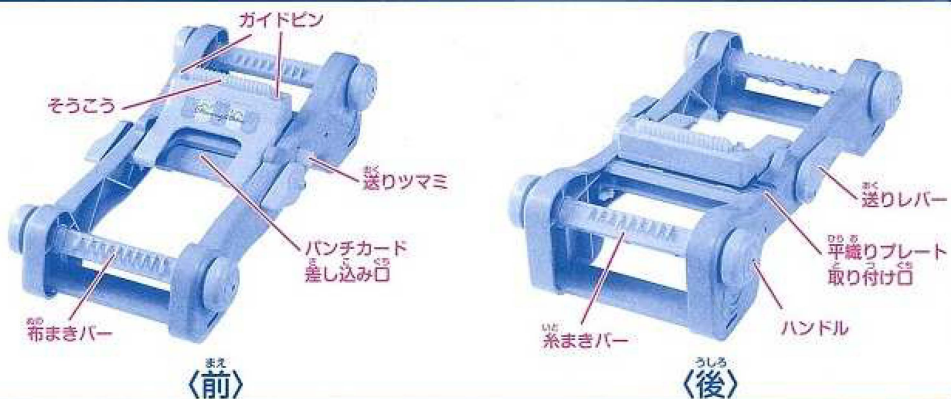
タテ糸

ヨコ糸

ヨコ糸

- パンチカード 文字やマークを織るときに使用します。16枚のパンチカードが入っています。A～Zのアルファベット26文字、音符マーク、ハートマーク、ボーダー模様、くまの顔などを織ることができます。パンチカードに印刷してある小さな赤い数字は、ヨコ糸の段数を表しています。
- 平織りプレート 平織りの無地や好きな太さのボーダー模様を織るときに本体にセットして使います。
- クシ ヨコ糸を引き寄せ織り目をきれいに揃えるのに使います。
- シャトル ヨコ糸をまきつけて杼道 (タテ糸を上下に分け、ヨコ糸を通すスキ間) に通すまきです。
- 織り出し棒 織り始めのときに (ヨコ糸を通す前) タテ糸の杼道へ通してタテ糸の間隔を揃えるのに使います。紛失したときは、竹ヒゴなどを使ってください。
- ぬい針 余ったヨコ糸の端を自立したないところに縫い込むときや、織ったものをつなぎ合わせる時に使います。
- 毛糸 タテ糸用の細めの毛糸 (ピンク) 1玉
ヨコ糸用のふわふわの毛糸 (ピンク、ブルー) 各1玉
使い終わったら市販の毛糸を使ってください。タテ糸は
そうこうのミゾに入る太さであればどのような糸でもよいです。

本体の部品の説明



そうこう タテ系を通し、送りレバーを操作することによりパンチカードや平織りプレートと連動して杼道(タテ系を上下に分けて、ヨコ系を通すスキ間)をつくります。

送りレバー 下げることにより、そうこうを動かします。必ず下まで確実に下げてください。

送りツマミ パンチカードを送ったり戻したりするときに使います。使うときは必ず送りレバーを下げ、そうこうを上げてください。

ガイドピン そうこうの左右の端にひとつずつあり、織るヨコ糸の色を知らせてくれます。

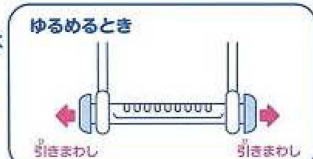
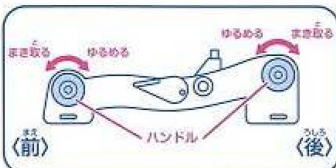
パンチカード差し込み口 パンチカードをここに差し込みます。パンチカードは必ず平行に差し込んでください。

平織りプレート取り付け口 平織りを織るときに平織りプレートをここにセットします。

糸まきバー タテ糸の一端を取り付けてまき取る棒で、簡単な一本がけができる小さいツメと、長いものを織るのに便利な大きいツメがあります。

布まきバー もう一方の糸端を取り付け、織り上がった布をまき取る棒です。

ハンドル 糸まきバー、布まきバーを回します。まき取るときは外側に回します。ゆるめる時は左右のハンドルを引ながら内側へ回します。ハンドルを回すときは必ず両手で左右のハンドルを同時に回してください。



織り方の基本

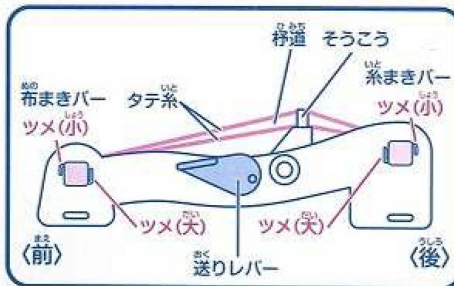
※遊ぶ前の注意※ そうこう部が上下しますので、手や指をはさまないように注意してください。

1. タテ糸のとりつけ



本体の低い方(布まきバー側)を手前にして置きます。糸まきバー、布まきバーには、それぞれ2種類のツメが付いています。小さいツメは短いものを織るときに使い、大きいツメは長いもの(マフラーなど)を織るときに使います。

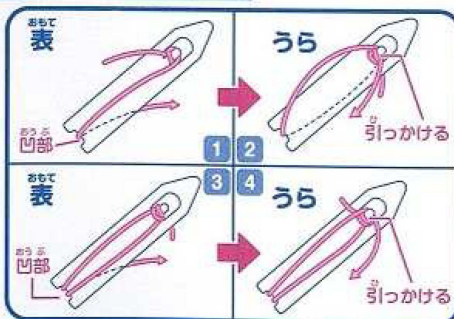
※あとからタテ糸を長くすることはできません。



最初に送りレバーを上げ下げします。次に布まきバーと糸まきバーのハンドルを引き直し、左図のように小さいツメを外側に向け、タテ糸を取り付けます。

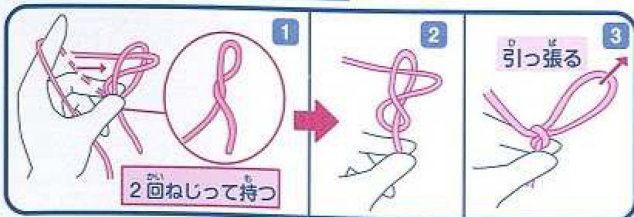
長いものを織るときはタテ糸の取り付け方は、14ページの「マフラーを織ってみよう」を参照してください。

2. ヨコ糸の準備

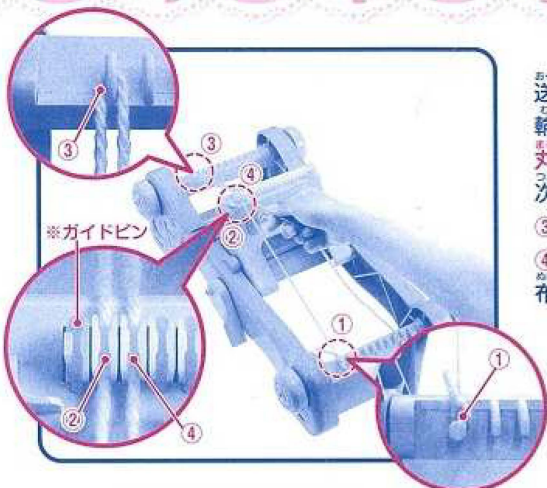


- 1 シャトルの穴の中にある細い棒に、切ったヨコ糸の端をひとまきします。
- 2 シャトルの下側の凹部に引っかけ、うらに回して中の棒にかけます。
- 3 表、4 うらと交互に糸を繰り返しかけていき、まきとつたら糸の端を50cmくらい残して切ります。2色使うときは、それぞれシャトルにまいてください。※市販の毛糸を使うときは、シャトルが杼道に通る太さまで毛糸をまいてください。

3. タテ糸をセットしよう ※短いものを織るとき(小さいツメを使うとき)



タテ糸用の毛糸の端を、左図のように結んで輪にします。

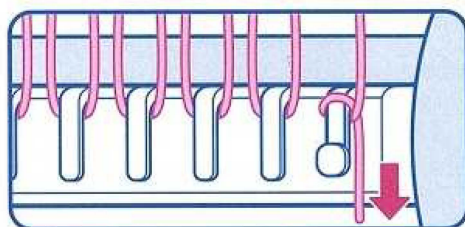


送りレバーを止まるまで押し下げます。
 輪にしたタテ糸を、①手前の布まきバーの左端の丸いツメにかけます。
 次に、②左端のそうこうミソにタテ糸を差し込み、
 ③糸まきバーの左端のツメにタテ糸をかけます。
 ④2番目のそうこうミソにタテ糸を差し込み、
 布まきバーの2番目のツメにタテ糸をかけます。

※注意※
 そうこうの一番端のミソは、ガイドピンですので
 まちがえてタテ糸をかけないように注意してください。



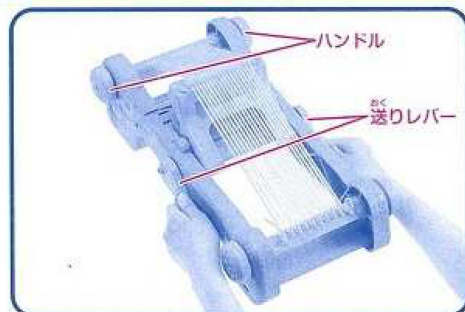
写真のように、布まきバー→そうこうミソ→糸まきバー→
 そうこうミソ→布まきバー……と、くり返してタテ糸を
 均等に張っていきます。



最後の糸端は、布まきバーの右端のツメに、
 糸がたるまないように引っ張りながら止めます。

長いものを織るときはタテ糸のとりつけ方は、
 15 ページで説明します。

4. 送りレバーの操作

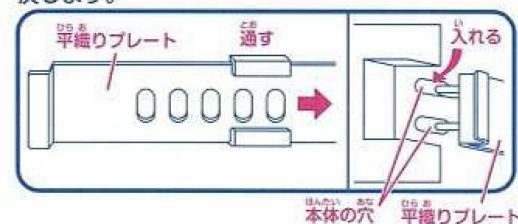


何回か送りレバーを上げ下げし、タテ糸がたるまない
 ようにスムーズに押し下げて、糸まきバーのハンドル
 を回して調節します(糸まきバーを回してタテ糸をゆる
 めると、布まきバー側のタテ糸の端が短くなり、仕
 上げがやりにくくなります)。

5. 平織りプレートの入れ方



送りレバーが下がっていることを確認してから、
 平織りプレートを取り付け口からすべらせるように
 入れ、下図のように正しくセットしてください。
 平織りプレートをセットしたら、送りレバーを上げて
 戻します。



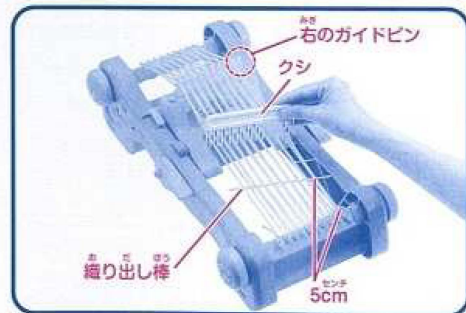
送りレバーを上げ下げし、平織りプレートが左右に
 動いていることを確認してください。

6. 織り出し棒のセット



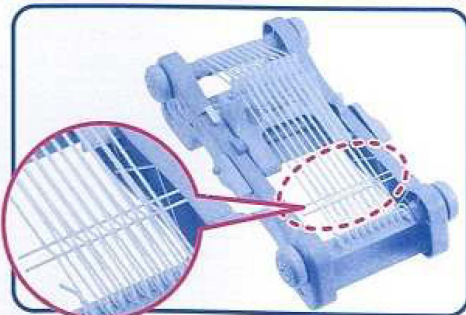
送りレバーの上げ下げを繰り返して、左右のガイドピン
 が交互に上がるかを確認してください。

そうこうによって、2つに分かれているタテ糸の間に
 杼道と言います。



右側のガイドピンが上がっていることを確かめて
 から、杼道に織り出し棒を1本通し、クシで手前に
 引きよせます。

布まきバーと織り出し棒の間に5cm程度間をあげ
 て織ると最後に房を作りやすくなります。



送りレバーが止まるまで、しっかりと押し下げます。

もう一度送りレバーを上げ、タテ糸の上下が逆にな
 ったかどうかを確認して、もう1本の織り出し棒
 を杼道に入れ、クシで引きよせます(タテ糸の上下が
 変わらない場合は平織りプレートが正確に入ってい
 るかどうか見直してください)。

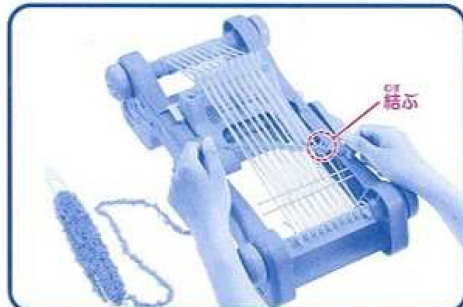
7. 平織りを織る



送りレバーを1回押し下げて戻し、タテ糸の上下が逆になっていることを確認してから、杼道の右側から左側へ、ヨコ糸がまいてあるシャトルを通します。
※右側のガイドピンが上がっている状態で織り始めてください。

♥ポイント♥

タテ糸をきつく張りすぎると、送りレバーを下まで押せなかったり、そうこうがうまく戻らない場合がありますので、糸まきバーのハンドルを引きながら回し、タテ糸をゆるめて調節してください。また、平均にタテ糸が張られていないと、糸まきバーをゆるめてもそうこうが戻らない場合がありますので、そうこうを指で押して戻してください。



ヨコ糸の端を10cmくらい残し、一番端のタテ糸に結んでおきます。
ヨコ糸にゆるみをもたせて風合いを出すために、ヨコ糸を写真のように左右につまんで張りながら斜めに通します。

♥ポイント♥

ヨコ糸を強く引きすぎると、織り幅が縮まり、両端が不揃いになりますので、引きすぎないように注意しましょう。



クシで斜めに通したヨコ糸を手前に引きよせます。



送りレバーをもう1回押し下げ、左から右へ糸まきを通し1段目と同じようにクシで引きよせると2段目が織れます。



ヨコ糸の折り返しのとき、折りまげ部分を指でつまんできちんと整えます。このとき、タテ糸を左右に引っ張ると間隔が広がってきれいに織れないので引っ張らないようにしましょう。

◆美しく織るコツ◆

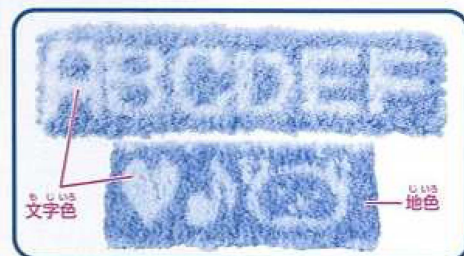
1. タテ糸の張りを平均にする。
2. ヨコ糸に適度のゆるみを与える(斜めに通す)。
3. 布の両端(布耳)を揃える。



以上をくり返します。

ヨコ糸の糸端は、最後に付属の針で自立たないところに縫い込み、余った糸は切り落とします。
(13ページ「残ったヨコ糸の端の処理」参照)

8. パンチカードで文字やマークを織る



モコモジオーナは、パンチカードを使ってアルファベットやマークが簡単に織れます。ヨコ糸を2本使って、二重に織る織り方です。ここではアルファベットの「A」を織ります。



平織りプレートが入っている状態で左右のガイドピンに毛糸を付けます。送りレバーを下げるのを繰り返すと左右の端のピンが交互に上がります。上がったガイドピンに毛糸を付けます。ガイドピンは織る色の毛糸を覚えてくれたり、パターンが変わったかどうかを確認することができます。ヨコ糸に使う毛糸をそれぞれ少し(5~6cm)切って右側にブルー(地色)、左側にピンク(文字色)を付けます。





送りレバーが止まるまで押し下げ、平織りプレートをはずします。

最初からパンチカードを使う場合は、1～3の手順で毛糸をセットし、送りレバーが止まるまで押し下げます。

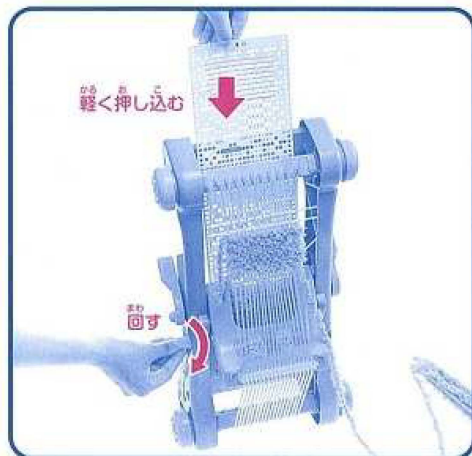


写真のように、糸まきバーを下にして本体を立てます。次に、織りたい文字のパンチカードを選びます。パンチカードは、プリントされている面を表にして、パンチカード差し込み口から織りたい文字の矢印を下にしてパンチカードを入れます。

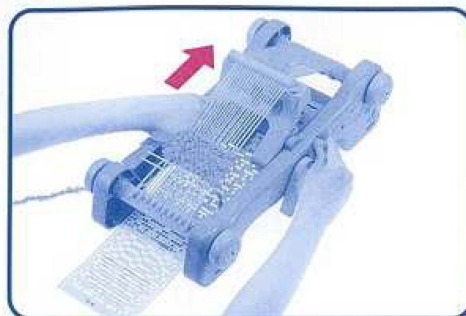
♡ポイント♡

パンチカードはやわらかいので、写真のように持って曲がらないようにして入れてください。

パンチカードについては、14ページの「3. パンチカードの見方」を参照してください。



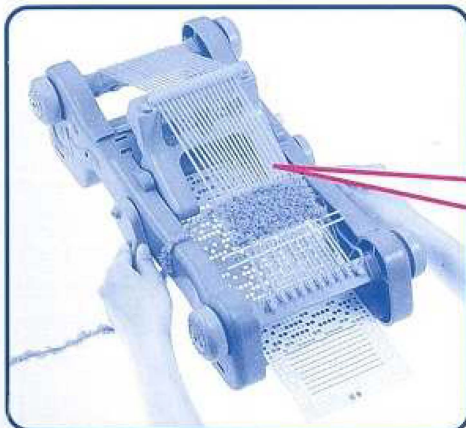
パンチカードを軽く押し込みながら、送りツマミをゆっくり回し、パンチカードを2～3段送ります。



入りにくいときは、立てた本体をもとに戻し、タテ糸と本体の間から手を入れてパンチカードを少し押しながら送りツマミを回してください。

♡ポイント♡

- パンチカードは赤い線を見ながら、必ず平行に入れてください。
- 送りツマミは無理に回さないでください。



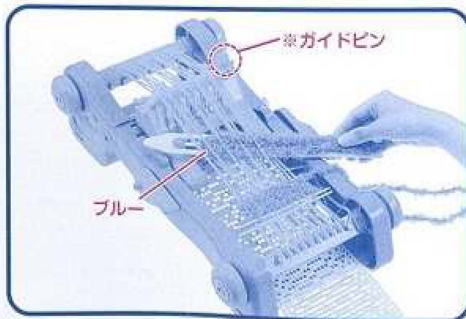
パンチカードが平行に入っているかどうかを確認しながら、送りレバーをパンチカードの太線のところまで送ります。



太線のところまでパンチカードが送られたら、送りレバーを押し上げてもとに戻します。

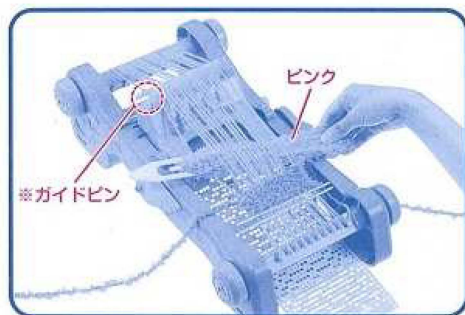
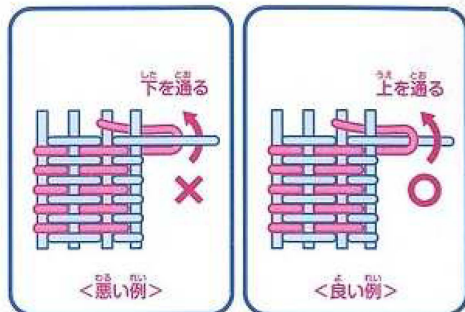
※注意※

そうこうが下がりづらく、送り道が狭いときは、送りツマミを少し前後に動かしてください。



パンチカードの織り初めは、全て右側の地色からになっています。

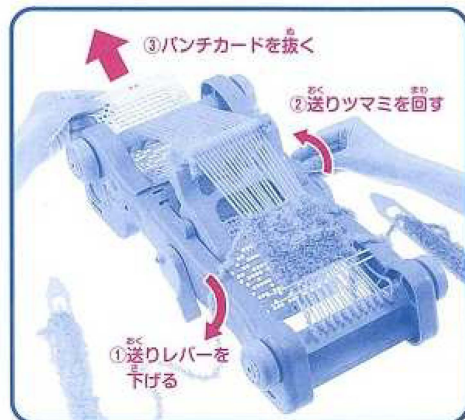
※このとき右側のブルー(地色)のガイドピンが上がつているのを確認してください。ブルーの毛糸で送り道の右側から左側へシャトルを通し、1段目を織り、クシで手前に引きよせ整えます。パンチカードが送られたかどうかを確認してください。(パンチカードの右側の数字が2に変わります)



このように送りレバーを押し下げ、ガイドピンの教えてくれる毛糸の色でパンチカードの28段まで織ります。

1文字織り終わるとそうこうが全て持ち上がります。(ガイドピンはシャトルを入れる方向とは関係ありません)

※パンチカードのアルファベット・ハートマーク・音符マークは28段で、くま・ボーダーは50段です。



通し方

左図のように、両端の折り返し部分は、前に織った毛糸の上を必ず通るように織ってください。

♡ポイント♡

そうこうが下がらない場合は、送りツマミを少し前後に動かしてください。

- ① 送りレバーを押し下げて戻し、左側のピンクのガイドピンが上がっているかと、パンチカードが送られたかどうかを確認してください。今度はピンクの毛糸で、右側から左側へ2段目を織ります。
- ② 次に、送りレバーを押し下げて戻し、右側のブルー(地色)のガイドピンが上がっていることを確認してから、今度は左側から右側へ3段目を織ります。
- ③ もう一度、送りレバーを押し下げて戻し、左側のピンクのガイドピンが上がっていることを確認してから、左側から右側へ4段目を織ります。

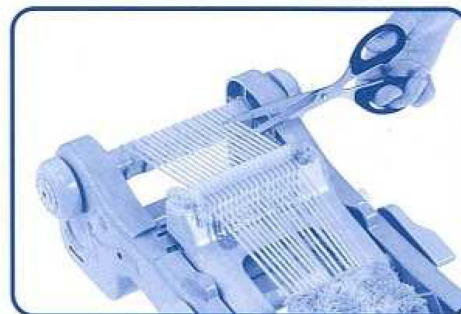
このように送りレバーを押し下げ、ガイドピンの教えてくれる毛糸の色でパンチカードの28段まで織ります。

1文字織り終わるとそうこうが全て持ち上がります。(ガイドピンはシャトルを入れる方向とは関係ありません)

※パンチカードのアルファベット・ハートマーク・音符マークは28段で、くま・ボーダーは50段です。

パンチカードを抜くときは必ず、送りレバーが止まるまで押し下げて、そうこうを上固定します。次に送りツマミを回してパンチカードを抜きます。このとき、パンチカードは強く引っ張らないでください。

9. 織り終わったら



織り終わった最後のヨコ糸は、布端から10cmくらい残して切ってタテ糸に結びます。最後に付属の針で自立たないところに縫い込み、余った糸は切り落とします。(13ページ「残ったヨコ糸の処理」参照)

糸まきバーにかけてあるタテ糸を、そうこうと糸まきバーとの間で切ります。(タテ糸の房の長さを残して切ります)



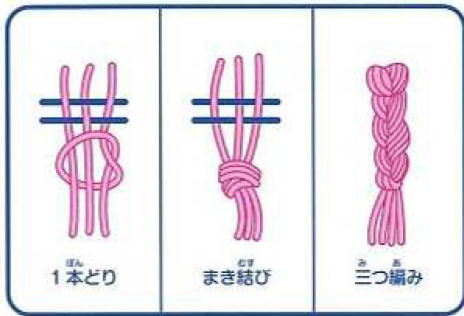
切ったあと、布まきバーからタテ糸をはずします。そして、つながって輪になっているタテ糸を1本ずつに切ります。このあと、ほどこけないように房を作ります。

10. ヨコ糸のつなぎ方、ヨコ糸の色の替え方

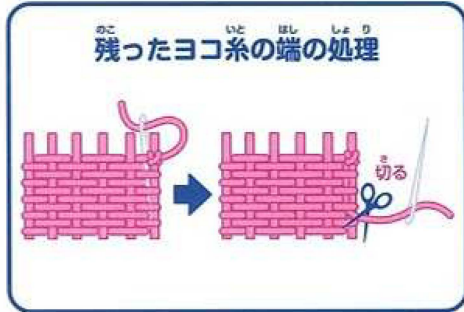
シャトルにまいたヨコ糸が足りなくなったら、4ページの「2. ヨコ糸の準備」の手順でシャトルに新しいヨコ糸をまき、その糸端を結びつなげます。

ヨコ糸の色を替えたい場合は、ヨコ糸を布端から10cmくらい残して切ってタテ糸に結びつけ、替えたい色の糸のシャトルを杼道に通して織り進めます。

11. 房を作る



切ったタテ糸を3~4本ずつ束ねて結び房を作ります。房の作り方は、デザインに合わせて選んでください。



ヨコ糸の糸端は、付属の針で自立しないところに縫い込み、余った糸は切り落としてください。

♡メモ♡

Blank lined area for notes.

1. パンチカードを組み合わせよう



18ページの「かな→ローマ字一覧表」を見ながら、名前や好きな言葉を織ってみよう！

パンチカードを使って、いろんな文字を組み合わせてね♪

- 平織りの織り方.....7~8ページ
- パンチカードを使った織り方.....8~11ページ
- 織り終わりの処理.....12~13ページ

2. 糸の準備



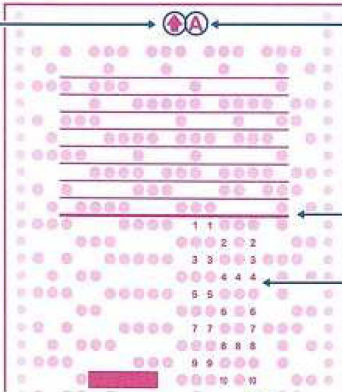
マフラーを織ります。タテ糸用の毛糸(細めの毛糸)とヨコ糸用毛糸(ブルーとピンク、ふわふわの太い毛糸)を用意します。タテ糸を150cmの長さで18本切ります。ヨコ糸の2色はそれぞれのシャトルにまいてください。(4ページ「2. ヨコ糸の準備」参照)

※注意※
仕上りの寸法は、アルファベットで約10文字ですが、あくまで目安です。毛糸の引っ張り具合やクシでの抑え具合、毛糸の太さなどで差がでます。また、長さによってはセット内容の毛糸では足りなくなる場合があります。

♡ポイント♡
地色と文字色の毛糸の色に差をだすと、模様ははっきりします。

3. パンチカードの見方

パンチカードを本体に入れる方向を示しています。(A~Z、音符マーク、ハートマークは1枚に2種類文字やマークが入っています。矢印の方向に注意してください。)



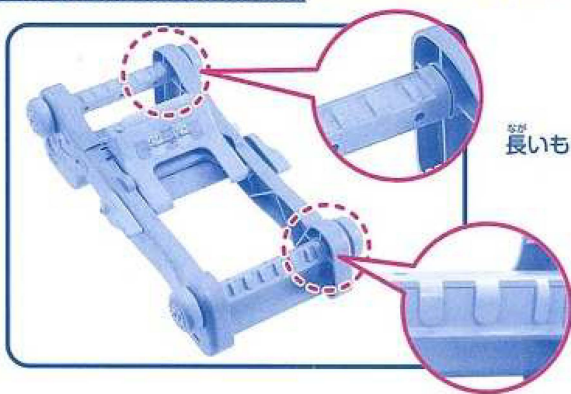
パンチカードの文字やマークと示しています。

織り始めの太線

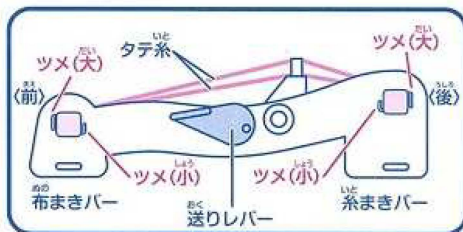
番号は段数を示しています。



4. タテ糸のとりつけ ※長いものを織るとき

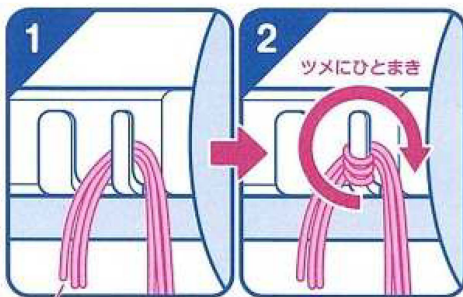


長いものを織るときは大きいツメを使います。



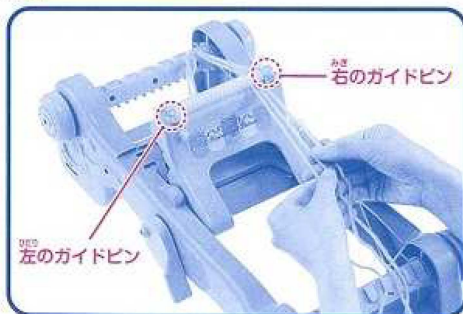
ハンドルを引き回して、左図のように大きいツメを外側にします。

送りレバーを止まるまで押し下げます。



①糸まきバーの右側の少し小さいツメに、タテ糸を3本一束にして糸端がツメの左側になるように引っかけます。

②糸端をおさえたまま、右手に持っている長い方の毛糸をツメにひとまきします。そのまま、手前にやや強く引っ張ると糸がツメに固定されます。



ツメに引っかけたタテ糸はそうこうミソに右側から入れていきます。

※注意※

※そうこうの一番端のミソは、ガイドピンですのでまちがえてタテ糸をかけないように注意してください。



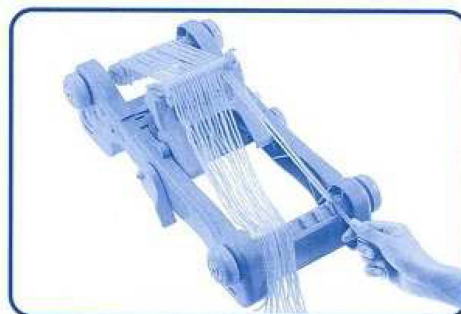
同じように残りのツメにも3本を一束にして引っかけて、タテ糸をそうこうミソに入れていきます。

※注意※

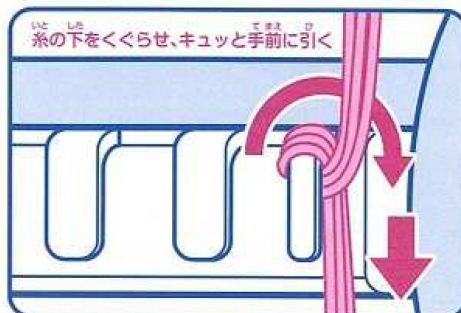
18本のタテ糸が正しくそうこうミソに入っているかどうか確認してください。



そうこうミソからはすれないように注意しながら、全部の糸をまとめて左手でにぎり、たるんでいる糸のないように直します。糸を張ったまま、右手で糸まきバーの右ハンドルを外側へ回して、糸を布まきバーから約15cm残したところまでまき取ります。



右端から3本を一束とり、布まきバーのツメの右側から引っかけます。



強めに引っ張ったまま、糸端を張られた糸の下をくぐらせ、キュッと手前に引くと、糸端は張られた糸に押さえられて固定されます。



残りのツメにも同じように3本ずつを1束にして
引っかけ、全部の糸をとりつけます。

◆美しく織るコツ◆

タテ糸の張りくあいを、全部平均するように張るのが
きれいに織るコツです。指で押さえてみて、ゆるんだ糸
は直しましょう。



平織りプレートを取りつけ、織り出し棒を2本
セットします。(6ページ「6. 織り出し棒のセット」参照)

8ページの「8. パンチカードで文字やマークを織る」を
参照して、文字やマークを織ります。

5. 布地のまき取り



織り進めると、杼道が狭くなります。
シャトルが通しづらくなったら布をまき取りましょう。
糸まきバーの左右のハンドルを同時に両手で引っ張り
(ロックが外れる)そのまま手前に回すと糸まきバーと
そうこうの間のタテ糸がゆるみます。

※注意※

ゆるめるときは、両方のハンドルを同時に回してください。



今度は布まきバーのハンドルを手前に回して、ゆるめ
た分のタテ糸をまき取ります。糸の張り具合は、最初
と同じくらいにしてください。

※注意※

まき取るときは、ハンドルをそのまま回します。

作りたい長さまで織れたら、12ページの「9. 織り終
わったら」と、13ページの「11. 房を作る」で仕上げた
ら出来上がりです。

♥マフラーの出来上がり♥



ヨコ糸が足りなくなったら、
おうちの毛糸を足してね。

かな→ローマ字一覧表

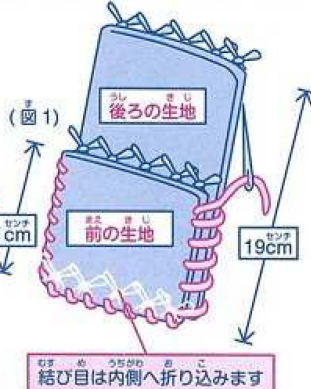
つまる音「っ」(小さいっ)は次の子音を2つ重ねてね。例/あっちゃん→ACCHAN

あ	い	う	え	お											
A	I	U	E	O											
か	き	く	け	こ	が	ぎ	ぐ	げ	ご	きゃ	きい	きゅ	きえ	きよ	
KA	KI	KU	KE	KO	GA	GI	GU	GE	GO	KYA	KYI	KYU	KYE	KYO	
さ	し	す	せ	そ	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ	しゃ	しい	しゅ	しえ	しよ	
SA	SHI	SU	SE	SO	ZA	ZI	ZU	ZE	ZO	SYA	SHI	SHU	SYE	SHO	
た	ち	つ	て	と	だ	ぢ	づ	で	ど	ちゃ		ちゅ	ちえ	ちよ	
TA	CHI	TU	TE	TO	DA	DI	DU	DE	DO	CHA		CHU	CHE	CHO	
										CYA		CYU	CYE	CYO	
な	に	ぬ	ね	の						にゃ	にい	にゅ	にえ	によ	
NA	NI	NU	NE	NO						NYA	NYI	NYU	NYE	NYO	
は	ひ	ふ	へ	ほ	ば	び	ぶ	べ	ぼ	ひゃ	ひい	ひゅ	ひえ	ひよ	
HA	HI	FU	HE	HO	BA	BI	BU	BE	BO	HYA	HYI	HYU	HYE	HYO	
ま	み	む	め	も	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ	みゃ	みい	みゅ	みえ	みよ	
MA	MI	MU	ME	MO	PA	PI	PU	PE	PO	MYA	MYI	MYU	MYE	MYO	
や		ゆ		よ						りゃ	りい	りゅ	りえ	りよ	
YA		YU		YO						RYA	RYI	RYU	RYE	RYO	
ら	り	る	れ	ろ											
RA	RI	RU	RE	RO											
わ	うい	うえ	を	うお	ん										
WA	WI	WE	WO	WO	NN										
											じゃ	じい	じゅ	じえ	じよ
											JA	JYI	JJU	JJE	JJO
											JYA	ZYI	JJU	JJE	JJO
											ZYA	ZYI	ZYU	ZYE	ZYO
て	てい	てゆ	てえ	てよ	うあ	うい	う	うえ	うお	びゃ	びい	びゅ	びえ	びよ	
TYA	TYI	TYU	TYE	TYO	VA	VI	VU	VE	VO	BYA	BYI	BYU	BYE	BYO	
ふ	ふい	ふえ	ふお	ぎゃ	ぎい	ぎゅ	ぎえ	ぎよ	ぴゃ	ぴい	ぴゅ	ぴえ	ぴよ		
FA	FI	FE	FO	GYA	GYI	GYU	GYE	GYO	PYA	PYI	PYU	PYE	PYO		

ふわふわ毛糸のポーチの作り方

●ポーチの本体部分を作ります(平織りプレートを使います / タテ糸1色、ヨコ糸1色)

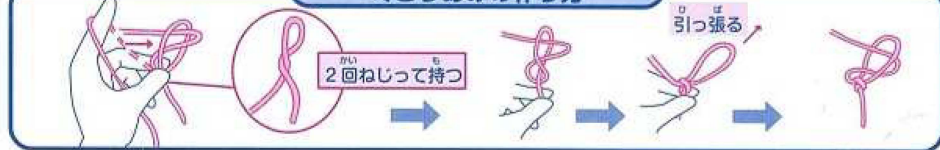
- ① 左端からそうこうミソに、タテ糸をセットし、19cmの長さになるように後ろの生地を織ります。
- ② 左端からそうこうミソに、タテ糸をセットし、11cmの長さになるように前の生地を織ります。
- ③ ①と②を、21ページの「くまの作り方」の頭②～⑤までの方法で整えます。
- ④ 生地2枚を(図1)のように別の糸(21ページの★を参照)で縫い合わせます。底からはみ出ているタテ糸の結び目は内側へ折り込みます。



●ポーチの手さげ用ひもを1本作ります(並太の毛糸)

- ① 並太の毛糸で30cmのくさりあみのひもを作ります。

くさりあみの作り方



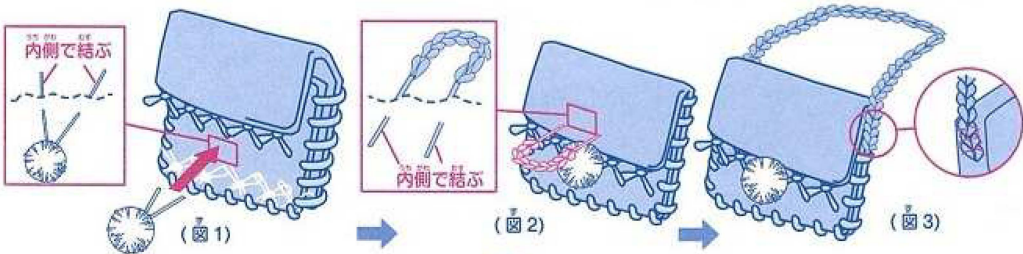
●ポーチの留め具のパーツを1組作ります(並太の毛糸)

- ① 並太の毛糸で7cmのくさりあみのひもを作ります。両端は毛糸を約5cm残しておきます。(図1)
- ② 3cm巾の厚紙などに並太の毛糸を50回巻き付け、(図2)の手順でポンポンを作ります。直径3cmになるように切りそろえます。中心を結んだ糸は残します。(図2)



●ポーチを組み立てます

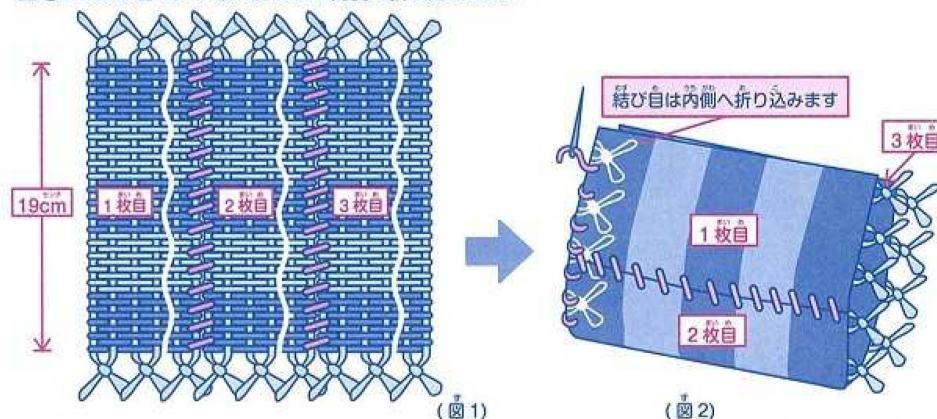
- ① ポーチのふたを開けた時、ふたの端がかかる位置に(図1)のようにポンポンの残り糸を通し裏で結びます。
- ② ①で取り付けたポンポンに引っかかる位置に留め具がくるように、くさりあみの両端の糸をふたの生地に通し裏で結びます。(図2)
- ③ 手さげ用のくさりあみのひもは本体の両側に別の糸(21ページの★を参照)を使って取り付けます。(図3)



ふわふわ毛糸のバッグの作り方

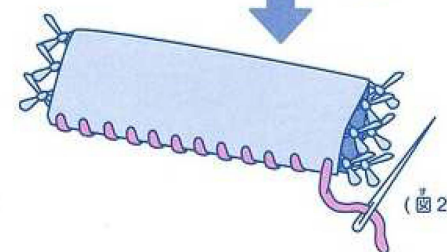
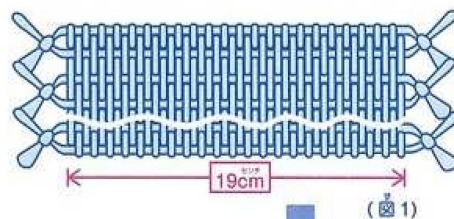
●手提げの本体を作ります(平織りプレートを使います / タテ糸1色、ヨコ糸1色)

- ① 左端からそうこうミソに、タテ糸をセットし、19cmの長さになるように織ります。ストライプ模様にするために約4cm織ったら色を変えます。(色の替え方は12ページを参照)
- ② ①と同じ大きさの生地を3枚織り、21ページの「くまの作り方」の頭②～⑤までの方法で整えます。
- ③ 生地3枚を(図1)のように別の糸を使って縫い合わせます。
- ④ 3枚つないだ生地を(図2)のように二つ折りにして両脇を縫い合わせます。生地からはみ出たタテ糸の結び目は内側へ折り込みます。



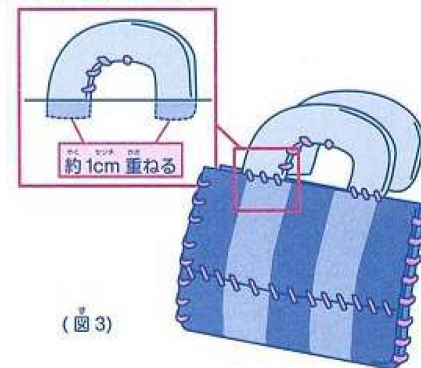
●手提げの持ち手を作ります(平織りプレートを使います / タテ糸1色、ヨコ糸1色)

- ① 左端からそうこうミソに、タテ糸をセットし、19cmの長さになるように織ります。(図1) 同じ大きさの生地を2枚織ります。
- ② 生地をそれぞれ(図2)のように二つ折りにして縫い合わせます。



●本体に持ち手を付けます

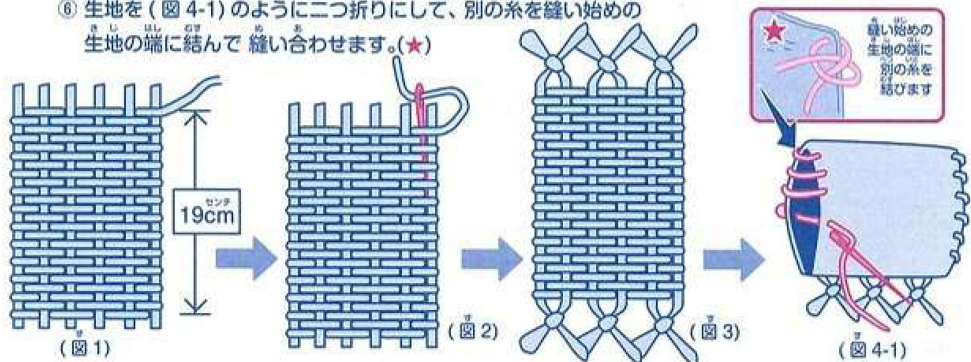
- ③ それぞれの持ち手の両端のはみ出たタテ糸の結び目は内側へ折り込み、本体の取り付け位置を約1cm重ねて(図3)のように縫い付けます。



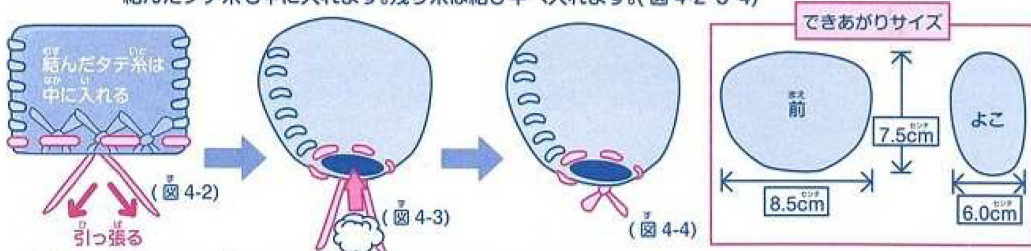
ふわふわ毛糸のくまの作り方

●頭・体・手・足・しっぽの各部分を作ります(平織りプレートを使います)/タテ糸1色、ヨコ糸1色

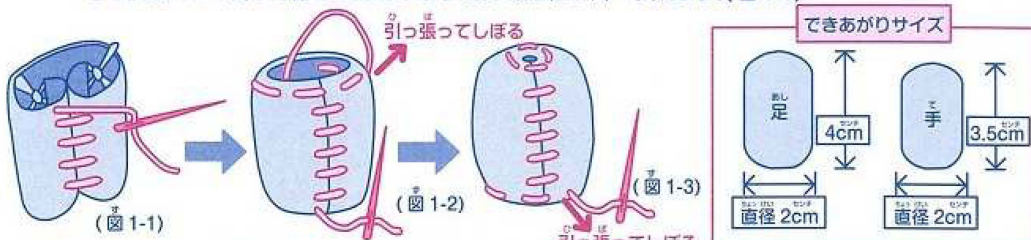
- 頭・・・①左端からそうこうミソに、タテ糸をセットし、19cmの長さになるように織ります。(図1)
 ②生地を織り機からはすす前に最後のヨコ糸を付属の針を使って生地に縫い込みます。(図2)
 ③織り終わった生地を織り機からはすします。
 ④生地の上下のはみ出ているタテ糸をそれぞれ端から2本ずつ結びます。(図3)
 ⑤織り始め側のタテ糸は輪の部分を持って端から2本ずつ結びます。生地の出来上がりです。
 ⑥生地を(図4-1)のように二つ折りにして、別の糸を縫い始めの生地の端に結んで縫い合わせます。(★)



- ⑦「できあがりサイズ」になるように、綿を詰めて、別の糸で口の周りを縫って、しぼります。結んだタテ糸も中に入れます。残り糸は結び中へ入れます。(図4-2・3・4)

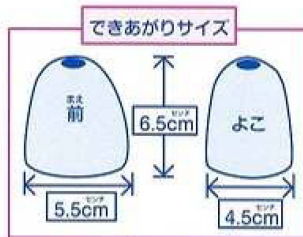


- 手・・・①左端から6番目までのそうこうミソに、タテ糸をセットし、5.5cmの長さになるように織ります。
 ②頭の作り方の②～⑤までの方法で生地を整えます。
 ③(図1-1)のようにタテ糸を結んだ両端をまきながら中央によせ、別の糸(★を参照)で縫い合わせます。
 ④次に、あいている口の周りを縫い、しぼります。(図1-2)のように、反対側の口の端へ糸を通します。
 ⑤反対側の口の周りも縫って、しぼります。残り糸は結び、中へ入れます。(図1-3)

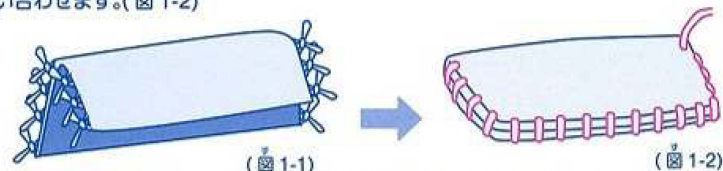


- 足・・・①左端から6番目までのそうこうミソに、タテ糸をセットし、6.5cmの長さになるように織ります。
 ②足の作り方は手と同じです。

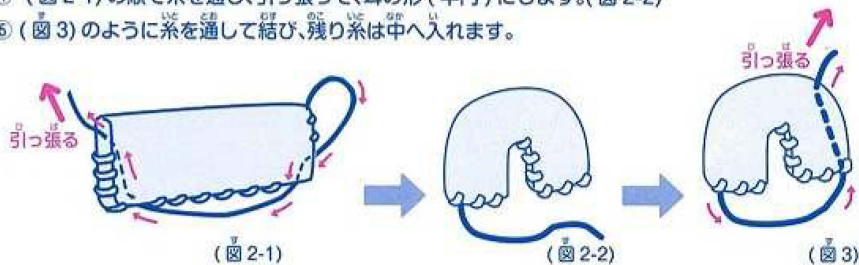
- 体・・・①左端から10番目までのそうこうミソに、タテ糸をセットし、16cmの長さになるように織ります。
 ②頭の作り方と同じ作り方で「できあがりサイズ」になるように体を作ります。＊体はしぼり口の方が首(頭とつなぐ部分)になります。



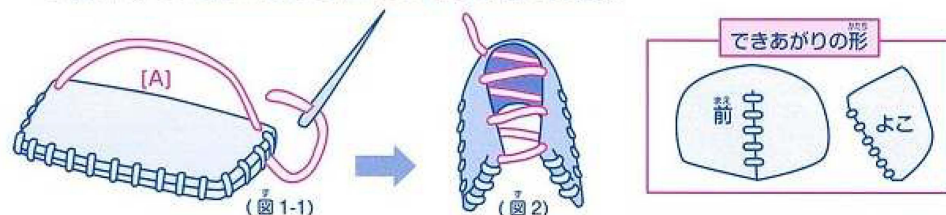
- 耳・・・①左端から6番目までのそうこうミソに、タテ糸をセットし、6cmの長さになるように織ります。
 ②頭の作り方の②～⑤の方法で生地を整えます。
 ③(図1-1)のように生地を2つ折りにし結んだタテ糸を生地の間にはさみ、別の糸(★を参照)で縫い合わせます。(図1-2)



- ④(図2-1)の順で糸を通し、引っ張って、耳の形(半円)にします。(図2-2)
 ⑤(図3)のように糸を通して結び、残り糸は中へ入れます。



- 鼻・・・①左端から6番目までのそうこうミソに、タテ糸をセットし、6cmの長さになるように織ります。
 ②耳の作り方の③までを作ります。
 ③(図1-1)のように生地を2つ折りにした[A]の辺をとじます。



●くまを組み立てます

- ①別の糸で縫い付けて組み立てます。しっぽは、ポンポンを作って縫い付けます。
 ②目・鼻はフェルトを切って手芸用ボンドで貼り付けます。
 ＊糸の種類によって大きさが変わります。
 目・鼻にボタンを縫い付けてもかわいいくまができます。

